

報道記者発表資料 朝来市		提出日	令和7年7月11日
		問合せ先	担当部署：市民課環境推進室
			電話：079-672-6120
		担当者	室長：村上 泰啓
担当：波多野 哲哉			
件名	幻の赤いハナムグリ「アカマダラハナムグリ」、朝来市で22年ぶりに確認！		
特殊な生態で非常に珍しいコガネムシ科の甲虫、アカマダラハナムグリを朝来市内で22年ぶりに確認しましたので報告します。（兵庫県レッドデータブックではAランク。2012年に改定されるまではEX（地域絶滅）とされていた。） 発見日時 令和7年6月14日（土）14：00頃 発見場所 朝来市内 確認者 山木 海那（やまき かいな）（市内在住：12歳） 同定確認 波多野哲哉（朝来市職員：市民課環境推進室）TEL：079-672-6120 「アカマダラハナムグリで間違いない。2003年に私も3頭確認し県立人と自然の博物館の八木剛主任研究員に同定確認を依頼した。2003年改定版の兵庫県レッドデータブックではEX（イクステINCT：地域絶滅）と位置付けられたこともあるほど、県内では非常に希少な昆虫。」 確認の状況 カナブンなどを採集しようと山に採集に出かけた際、樹液のでたうろ穴に顔をうずめていた。大きさは約17.5mm。波多野哲哉氏が講師を務める自然観察会に参加した発見者の担任の教師が撮影した写真を見て、発見者はアカマダラハナムグリを認識しており、珍しい昆虫であることを記憶していたため、発見時にすぐ同定ができた。 種の特徴 黄褐色と黒色のまだら模様を呈する。成虫はクヌギやコナラの樹液に集まり、新成虫は希少性 晩夏から初秋にかけて発生、そのまま越冬する。幼虫は猛禽類やコウノトリなどの大型鳥類の巣内で見られることが近年明らかとなった。（2009年にはコウノトリの巣の中で発見され、話題となった。） 近年の動向 兵庫県内では朝来市、川西市、豊岡市、養父市、新温泉町、神戸市、三田市等で確認 参考文献 兵庫県、2022. 兵庫県レッドリスト2022（昆虫類） 朝来市の方向性 令和8年度に生物多様性地域戦略の策定を目指す。今後も市内の様々な情報提供を受けて可能なものは公表を行い、市民の意識向上を促進する。 問い合わせ 朝来市役所市民生活部市民課環境推進室 TEL:079-672-6120／FAX:079-672-1334 E-mail:kankyoku@city.asago.lg.jp			

アカマダラハナムグリ画像資料



アカマダラハナムグリ

Anthracophora rusticola

兵庫県：A

環境省：情報不足(DD)

種の概要

体長15～21.6mm。前胸背板および上翅はつやを欠き、黄褐色と黒色のまだら模様を呈する。成虫はクヌギやコナラの樹液に集まり、新成虫は晩夏から初秋にかけて発生、そのまま越冬する。幼虫はワシタカ類や大型の水鳥の巣内で見られる。



写真提供：森正人

国内分布

北海道、本州、四国、九州

県内分布記録

神戸市、西宮市、宝塚市、川西市、加東市、豊岡市、朝来市、洲本市、淡路市、淡路島（市町不明）、三田市、加古川市、養父市、新温泉町

選定理由

人為性		特殊生息環境	学術性		
個体数激減	生息環境激変		分布が極限	分布の限界	希少
		○			○

特記事項

その後の調査では少し記録が見られる。大型鳥類の巣に依存するため、絶滅危惧の状況にあるが、最近になって生態の一部が解明され、生息情報が増えた。

保護上の留意点

月別アーカイブ

- [2012年12月 \(23\)](#)
- [2012年11月 \(28\)](#)
- [2012年10月 \(17\)](#)
- [2012年9月 \(12\)](#)
- [2012年8月 \(27\)](#)
- [2012年7月 \(33\)](#)
- [2012年6月 \(37\)](#)
- [2012年5月 \(36\)](#)
- [2012年4月 \(17\)](#)
- [2012年3月 \(28\)](#)
- [2012年2月 \(14\)](#)
- [2012年1月 \(15\)](#)
- [2011年12月 \(35\)](#)
- [2011年11月 \(62\)](#)
- [2011年10月 \(29\)](#)
- [2011年9月 \(21\)](#)
- [2011年8月 \(50\)](#)
- [2011年7月 \(35\)](#)
- [2011年6月 \(51\)](#)
- [2011年5月 \(43\)](#)
- [2011年4月 \(46\)](#)
- [2011年3月 \(28\)](#)
- [2011年2月 \(31\)](#)
- [2011年1月 \(32\)](#)
- [2010年12月 \(45\)](#)
- [2010年11月 \(64\)](#)
- [2010年10月 \(84\)](#)
- [2010年9月 \(38\)](#)
- [2010年8月 \(71\)](#)
- [2010年7月 \(34\)](#)
- [2010年6月 \(42\)](#)
- [2010年5月 \(39\)](#)
- [2010年4月 \(39\)](#)
- [2010年3月 \(32\)](#)
- [2010年2月 \(28\)](#)
- [2010年1月 \(30\)](#)
- [2009年12月 \(33\)](#)
- [2009年11月 \(47\)](#)
- [2009年10月 \(41\)](#)
- [2009年9月 \(34\)](#)
- [2009年8月 \(50\)](#)
- [2009年7月 \(48\)](#)
- [2009年6月 \(41\)](#)
- [2009年5月 \(36\)](#)
- [2009年4月 \(21\)](#)
- [2009年3月 \(15\)](#)
- [2009年2月 \(14\)](#)
- [2009年1月 \(31\)](#)
- [2008年12月 \(12\)](#)
- [2008年11月 \(29\)](#)
- [2008年10月 \(23\)](#)
- [2008年9月 \(18\)](#)
- [2008年8月 \(3\)](#)
- [2008年7月 \(6\)](#)
- [2008年6月 \(6\)](#)
- [2008年5月 \(9\)](#)
- [2008年4月 \(8\)](#)
- [2008年3月 \(5\)](#)
- [2008年2月 \(12\)](#)
- [2008年1月 \(11\)](#)
- [2007年12月 \(8\)](#)
- [2007年11月 \(11\)](#)
- [2007年10月 \(6\)](#)
- [2007年9月 \(10\)](#)

[トップ](#) > [ひとくblog旧](#) > [展示](#) > 展示します！コウノトリの巣から見つかったアカマダラハナムグリ

展示します！コウノトリの巣から見つかったアカマダラハナムグリ

2009年6月10日



この地味～な感じの甲虫ですが、実は兵庫県版レッドデータブックでは、絶滅種に指定されている、超レアな種類なんです。熱心な昆虫愛好家も、めったに見ないと言います。

実は、この虫「アカマダラハナムグリ（アカマダラコガネ）」が、つい先月、豊岡市にある戸島湿地で発見されました。発見された場所は、驚くべきことに、同じく兵庫県版レッドデータブックで絶滅種に指定されているコウノトリの巣のなかからです。

絶滅種と絶滅種の競演というか、共存というか、貴重な発見でした。ただし、どちらも「かつての絶滅種」というお断りがつきますが。

コウノトリは、かつて絶滅しましたが、野生復帰や大陸から野生のコウノトリがやってきています。アカマダラハナムグリも2003年に山東町にて再発見されているほか、県内で数件程度ですが確認されているので、正確には、もはや絶滅種ではありませんが、以前に「絶滅種」としてエキスパートが一度認定したほどに、数が少なく、希少な種であることは間違いありません。

この種を発見されたのは、県立コウノトリの郷公園の獣医さんでして、巣からヒナを引き上げる際に見つけたとのことで、何か変わった虫だと感じたらしく、その後、図鑑で調べたら、「絶滅種だ！、本当か？」ということで、当館に連絡を頂きました。そして、写真や現物で確認すると、やはり本物。

ということで、先日、記者発表させていただき、各紙に記事を掲載してもらいました（記者の皆さん、小難しい話を適切にまとめて下さりありがとうございます）。そして、せっかくなので、小さなスペースですが、当館にて展示することになりました。

展示情報は以下のとおりです。

【トピックス展】

「コウノトリの巣から発見された絶滅種アカマダラハナムグリ」

期間：2009年6月10日から7月31日

場所：人と自然の博物館 4 F ひとくサロン

となります。

今回、採集した標本2点と簡単なパネル解説ですが、とても珍しい昆虫なので、ぜひお越し頂ければと思います。「初夏の鳴く虫と巡回展」と合わせてご覧頂ければと思います。

このアカマダラハナムグリをめぐる生態、コウノトリや戸島湿地との関係については、のちほどのブログ記事で紹介したいと思います。

(みつはしひろむね)

展示、館からのお知らせ

2004.8.5
よみうり

(第三種郵便物認可)

アマチュア昆虫研究家で山東町職員の波多野哲哉さん(30)が、町内の粟鹿山で、県内では絶滅の恐れがあるアカマダラコガネ(コガネムシ



科)の写真を約三十年ぶりに見つけて採集。同町楽音寺のヒメハナ公園で開催中の展示会「ひとくきランバン in 山東町」(同実行委員会主催)で四日、標本の展示を始めた。

県内希少種 アカマダラコガネ

アカマダラコガネは、県の「レッドデータブック」で二十―三十年間は確認されていない希少種「EX」に分類されている。

県立人と自然の博物館(三田市)などによると、北海道から九州まで分布。まだら模様が特色で、体長約二センチ。クヌギなどの樹液に集まり、幼虫は朽ち木や腐葉土を食べる。かつては里山の雑木林でみられたが、林の減少などで次第に数が減っていったという。

小学生時代から昆虫採集を

30年ぶり発見



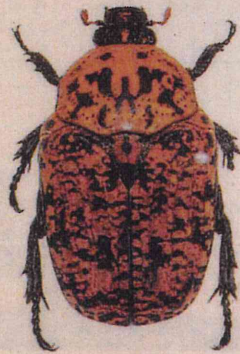
アカマダラコガネの標本を眺める波多野さん

続け、約三千種五千匹の標本を保管している波多野さんは六月中旬、粟鹿山に出掛けた際、クヌギの樹液にまみれたコガネムシ三匹を発見した。波多野さんは「県内では三十年は確認されていないはず。子どもたちには、実物を見て町内にアカマダラコガネが住める豊かな自然環境があることを知ってもらいたい」と話している。展示は最終日の二十二日まで。

昆虫研究家
波多野さん

山東で標本展示

全国的に数が激減 アカマダラコガネ



波多野さん採集

きょうから
山東で展示

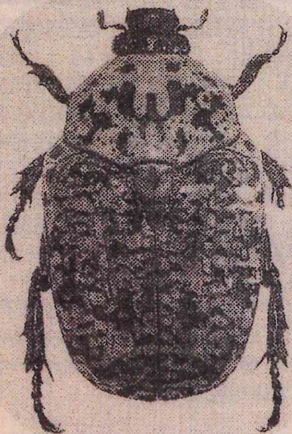
県版レッドデータブックで20～30年確かな生息情報がないとされているアカマダラコガネの写真を山東中央公民館の波多野哲哉さん(30)が同町内の栗鹿山中で採集し

た。5日から22日まで、同町榮音寺のヒメハナ公園で開かれている「ひとくはくキャラバン in 山東町」自然の魅力再発見」で展示する。

子どもたちから昆虫採集が趣味だったという波多野さん。「木にとまると樹液に頭を突っ込み、ドロドロになりながらなめているところを見つけた」と話している。

田市)の八木剛研究員(36)によると、アカマダラコガネはコガネムシ科で、体長は約2センチ。クヌギなどの樹液に集まり、里山の雑木林の代表的な昆虫だが、近年は全国的に非常に数が減ってきている。

絶滅の恐れ アカマダラコガネ



山東町で見つかった「アカマダラコガネ」

県内で30年ぶり発見 山東・ヒメハナ公園で展示

絶滅の恐れがあり、県版レッドデータブックEXランク(県内では見られない種)に指定されている昆虫「アカマダラコガネ」3匹が山東町で見つかったことが4日、分かった。

県内では約30年ぶりの発見で、22日まで同町・ヒメハナ公園で開かれている動植物や昆虫などを並べた「ひとくはくキャラバン in 山東町」自然の魅力再発見」で展示されている。

昆虫を採集、研究している同町中央公民館職員、波多野哲哉さん(30)が今年6月、町内の雑木林のクヌギの木の樹皮にへばりついているのを別々に見つけ、計3匹を捕獲した。波多野さんは「町内には、珍しい昆虫が生息する豊かな自然が残っていることが分かった。今後大切にする必要がある」と話している。【吉川昭夫】

2004.
8.5

毎日